令和２年度　第３回恵庭市学力・体力向上推進会議　会議録

〔開催日時〕　令和３年２月１２日（金）１３：３０～１４：４５

〔開催場所〕　恵庭市役所本庁舎　３階　３０１・３０２会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委員長／長岡　秀明（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

委　員／高桑　　純（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

結城　健介（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

中山　　舞（恵庭市ＰＴＡ連合会）

加藤　紀子（恵庭市小中学校校長会）

野口　俊之（恵庭市小中学校教頭会）

佐々木　保（若草小学校・柏陽中学校　学校運営協議会）

木村　博子（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

河内　紀彦（北海道ハイテクＡＣアカデミー）

事務局／教育長、教育部長、教育部次長、教育総務課長、教育総務課主査、教育総務課主事

〔傍聴者〕　１名

〔内　容〕　※長岡委員長が進行

１．開会

２．委員長挨拶

３．教育長挨拶

４．議事

（１）令和２年度　学習支援員等の配置について

（２）令和２年度　英検ＩＢＡの実施結果について

（３）令和２年度　中学校における部活動指導員配置事業について

（４）令和２年度　小学校体育授業支援事業の実施結果について

（５）令和３年度　学力・体力向上に係る予算（案）について

（６）恵庭市学力・体力向上推進会議設置要綱の一部改正（案）について

事務局より、資料に基づき説明

【説明要旨】

「学習支援員等の配置」については、教員以外での教育活動の支援のため、役割に応じた補助員や支援員等を、市内小中学校に配置している。特別支援教育学校補助員２０名、特別

支援学級補助員１５名、学習支援員１名、部活動指導員１名を配置している他、地域人材として、小学校英語外部指導員７名の支援を受けている。令和３年度も現在の体制を維持する予定だが、部活動指導員については、新たに１名の増員を見込んでいる。

「英検ＩＢＡの実施結果」については、令和元年度から道教委の英語力向上事業として、中学１～３年生を対象に実施している。令和２年度は、学校・学年ごとに日程を設定のうえ、１０～１１月に実施した。中学１年生が「テストＥ（英検でいう４級・５級レベル)」、中学２年生が「テストＤ（同３級～５級レベル)」、中学３年生が「テストＣ（同準２級～４級レベル)」を受験し、英検協会で採点・集計・結果分析を行い、各学校には既に成績資料が送付されており、市全体の結果も届いている。各校からは「生徒の英語への興味関心が強くなる」「授業改善や指導に活用している」「アンケートを含め５０分（授業時間内）で終わってほしい」という意見が出された。なお、令和元年度の実施結果と比較して、リスニングをはじめ、全学年で概ね成績の向上が図られており、市教委でも今後、結果を分析し、英語力向上の取組の参考としたい。

「中学校における部活動指導員配置事業」については、教員の部活動に係る負担の軽減による教育の質の向上や、生徒の技術向上、怪我の防止、適切な練習法の導入など、部活動の質的な向上を図る事業である。本事業は令和２年度から開始しており、現在は恵庭中学校女子卓球部に１名配置している。令和３年度は、新たに１名を恵明中学校バドミントン部に配置する予定である。

「小学校体育授業支援事業」については、「児童の体力・運動能力の向上」や「教員の指導力の向上」を図るため、市内の総合型地域スポーツクラブ（北海道ハイテクＡＣアカデミー）に指導者の派遣を依頼し、令和２年度は市内８校のうち７校で、１月末までに計４０回の授業を実施している。課題のある種目を選択して指導を受けるなど、各校のニーズや課題に応じて活用した。各校からは「派遣回数を増やし、よりニーズに合わせた指導を依頼したい」「コロナ対応により場所や時間が不足していた」などの意見が出された。児童の体力・運動能力の向上や、教員の指導力の向上に効果があり、各校のニーズも高いことから、令和３年度もハイテクＡＣアカデミーから指導者の派遣を継続する予定である。

「令和３年度の学力・体力向上に係る予算（案)」について、「標準学力検査（ＮＲＴ）の実施」は６０７万円。「英検ＩＢＡの実施」は、道教委の事業として英検協会が受験料を負担することから、市の負担はない。「ＡＬＴ（外国語指導助手）の配置」は１，５４４万５千円。「外国語指導に係る地域人材の活用」は２１３万４千円。「教職員への研修、環境整備等」は、ＧＩＧＡスクール構想に係る１人１台端末の保守費用など、大幅に拡大して２，７７１万５千円。「地域人材による学習指導」は、学校運営協議会の各校への交付金として１４３万円。「部活動指導員の配置」は、１名増員する見込みで拡大して８５万８千円。「小学校体育授業

への支援」も派遣回数を拡大して、ハイテクの派遣費用３１万円。

最後に、「恵庭市学力・体力向上推進会議設置要綱の一部改正（案)」については、本会議は平成３０年度の設置以降、委員の皆様に学力・体力向上に係るさまざまなご意見、ご提案をいただいているが、重点事項を明確化し、より多角的に協議が進められるよう、所掌事務を明確にするものである。具体的には、第２条「所掌事務」を「（１）全校の学校改善プラン及び体力向上プランの比較及び検証」「（２）ＩＣＴ機器の整備及び活用に係る施策」「（３）地域との連携及び地域人材の支援」「（４）地域における部活動の在り方」「（５）その他、児童生徒の学力及び体力の向上を図るために必要な事項」と規定したい。

【質疑応答等】

Ａ委員：英検ＩＢＡについて、前年度より概ね成績が向上しているとのことだが、新型コロナウイルスの影響により授業時数の減少もあるなかで、向上した要因があれば伺いたい。また、部活動指導員について、配置の基準はどうなっているのか伺いたい。学校の希望によるものなのか。

Ｂ委員：部活動指導員について、学校からの要望がどの程度あったことで、令和３年度は１名増員になるのか伺いたい。

Ｃ委員：令和３年度のＧＩＧＡスクール構想において、「ＧＩＧＡスクールサポーター」設置の見通しはどうなっているか伺いたい。

事務局：英検ＩＢＡについては、全学年において令和元年度より成績が向上している。新型コロナウイルスの影響があった分の授業時数は追いついている。これまでの取組として、小学校での英語専科教員や外国語専科非常勤職員の配置、ＡＬＴによる指導、小学校の英語の教科化も含めて、中学校へ進学した生徒の英語力が底上げされていることが一因と考えている。

部活動指導員については、中学校５校の要望を取りまとめたところ、配置を希望した学校は２校であった。令和２年度に配置した１校と、新たに希望した１校をあわせ、令和３年度は２校に配置する見込みとなっている。

「ＧＩＧＡスクールサポーター」については、予算案では委託業務の中で１名配置し、市内小中学校を巡回する形で計画している。

Ａ委員：英語の成績が向上しているのは、教員の指導力とも関係があるのではないか。小学校からの取組による成果だけではないと感じている。

Ｂ委員：部活動指導員は、思ったより要望が少ないと感じた。

５．学力向上に係る情報提供（学力向上アドバイザーより）

学力向上アドバイザー（木村委員）より情報提供

【要旨】

４月から令和３年度が始まる。子どもたちの教育環境がどのように変化していくか、予想がつかない状況であるが、子どもたちの「学びを保障する」ことが、私たちの役割だと考えている。

新学習指導要領が移行期間を経て、令和２年度から小学校で全面実施、令和３年度から中学校で全面実施となる。新型コロナウイルス感染拡大により、学校が臨時休業となるなど、さまざまなことが当たり前にできない状況となったが、逆に新しいことに取り組む機会でもあると思う。

これまで、本会議で平成３０年度に英検ＩＢＡ、令和元年度はＲＳＴ（リーディング・スキル・テスト）について提案してきた。本日は、ＲＳＴを柏陽中学校２年生の１学級で試行実施した結果を紹介しながら、これからの恵庭市の教育に必要なことを提案したい。本テストは、読解力を診断するテストである。これからの時代に求められている学力とは何かを考えるとともに、これまでの恵庭市が取り組んできた子どもたちの読書と、学力向上とを結び付けるツールとして提案する。

日本教育新聞（令和元年１２月９日）の記事で、日本の読解力低下を懸念する内容が掲載された。将来的には、全国学力・学習状況調査や大学入試共通テストがデジタル機器で実施することも予想しているが､｢ＧＩＧＡスクール構想｣による環境整備も加速するなど、教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。

６．意見交換

Ａ委員：恵庭市の読書の取組は凄いと感じているが、その一方で、学力と結びついていないことに疑問を感じていた。子どもたちは、興味のある分野は深く掘り下げていくが、一般的な文章の読解力や相手に伝える文章の構成などは、コミュニケーション力も含めて学ぶ機会が少ない。今後、主体的な学びを進めるにしても、質問の意味がわからないといけない。読解力は必須であり、子どもたちがどうやって身につけるかが難しい課題である。

Ｄ委員：２０３０年の教育を予想すると、新学習指導要領における小学校の英語の教科化や、外国人の増加等から、今後、英語が共通語として重要になるのではないか。子どもたちには、そういった世の中になることを踏まえて教えていくことが意欲につながると考えている。英検ＩＢＡの成績向上もそうだが､英検を受ける前にイメージすることで、学習効果や意欲に結び付く。学習の意図、理由を子どもたちに指導していくことが、重要になってくると思う。

Ａ委員：現在、在留外国人の多くは東南アジア人の実習生が多く、逆に英語でのコミュニケーションが難しい場合がある。英語はもちろん重要であるが、外国人にも理解しやすい「やさしい日本語」をマスターしていく必要もあると感じている。

Ｅ委員：小学校の体育授業支援について、拡大の基準を教えてもらいたい。また、部活動の今後の方向性として、委託やクラブ化など、考えや計画があれば教えてほしい。

事務局：小学校における体育授業支援は、これまで１校につき６回としていたが、学校規模によっては児童数や学級数に違いがあるため、大規模校では指導が行き届きにくいケースが発生することが課題として明らかになった。特に大規模校に時間数を増やして対応できるよう、今回、拡大としている。

　また、部活動指導については、国でも地域への移行も議論されている。現状では、教員以外に、地域のボランティアや部活動指導員の活用により対応しているが、今後は国の動向を注視しながら、体力向上の観点からも本会議による議論も踏まえ、検討を進めていきたい。

Ｆ委員：部活動については、教員の中でも部活動を生きがいとしている人もいると思う。部活動指導員配置の要望が少なかったことも、そういった要因もあるのではないか。

Ｃ委員：自分の勤務する中学校は、既に地域ボランティアの協力により指導してもらっており、部活動指導員を必要としないため、要望していない。

Ｇ委員：前回の会議で、特別支援教育学校補助員の時間数増を要望しており、検討いただいたと思うが、予算の関係上、すぐ実現するのは困難であると理解している。現状をみると、学校へ行けていない、いわゆる不登校の児童生徒が全国的に増えている。恵庭市では適応指導教室を設置しているが、医師による診断がつかない子も増えている。適応指導教室の利用者は、令和２年度は令和元年度と比べてほぼ倍であり、集団に馴染めない、また発達障がいが疑われるようなケースが多く、特に小学生で増えている。一方、中学生では、小学生と同じように集団は苦手であるが、学ぶ意欲は強く、将来に向けてよく勉強している。今後、各学校に配置している補助員等を手厚くして、個別な対応が必要となる児童生徒を救いながら、学力・体力の向上に発展してほしいと願っている。

Ｈ委員：小学校でも英語教育が始まっているが、小学校で英検ＩＢＡが受験できるような状況にならないか。新型コロナウイルス感染予防もあり、市外で受験することが難しい。中学校と同じように、小学校でも受けられればと思う。

事務局：英検ＩＢＡについては、現状では中学生が対象とされており、小学生には対応していない。ただ、小学校でも英語が教科化されたこともあり、今後、小学生でも受けられるようなものがあれば、活用を検討していきたい。

事務局：特別支援教育学校補助員については、前回の会議でのご意見を踏まえ、現在の１日４時間勤務から６時間勤務への拡大を目指し、予算要求を行ってきたが、財政状況もあり、令和３年度の実現とはならなかった。令和４年度に向けて、再度、学校の状況を調査し、支援が必要な子どもたちのためにも、継続して予算要求を行っていきたい。

事務局：小学校の英語教育について、学校の授業ではないが、社会教育事業で「イングリッシュ・キャンプ」という取組の他、文教大学の協力により「イングリッシュ・キャンパス」という日帰りの取組も実施している。いずれも人数に制限はあるが、こういった事業も活用しながら、学校でも国際交流として外国の方と触れ合う機会を設けるなど、時代の流れに沿った教育を進めていければと思っている。

Ａ委員：以前、フィリピンの方から、ＡＬＴになるためにはどうすればよいかと相談を受けたが、これは市で直接雇用しているのか、それとも委託という形なのか。

事務局：現在、恵庭市では４名中３名が委託事業者より派遣を受けており、１名がＪＥＴ（自治体国際化協会）から派遣を受けている。希望する方は、そういった派遣事業者に問い合わせていただく形になる。

事務局：ＡＬＴになるには、派遣事業者の社員となるか、海外青年招致事業に参加してもらう形があるが、後者だと母国での募集に申し込む必要がある。

７．その他

事務局：令和２年度の会議は、本日が最後となる。委員の皆様には、貴重なご意見・ご提案をいただき、感謝申し上げる。今後の学力・体力向上につながるよう取り組んでいく。

８．閉会